

# JASMA 会報

2019年1月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

## CONTENTS

新年ご挨拶	1
年頭所感	2
新年賀詞交歓会開催される	3
第3回共通基盤ネットワーク研究会開催	3
外部技術視察について	4
第39回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	4

## 新年ご挨拶

一般社団法人日本縫製機械工業会  
会長 眞壁 八郎



明けましておめでとうございます。  
皆様には希望に満ちた新春をお迎えることとお慶び申し上げます。  
国内景気は、これまで好調な企業収益を背景にした雇用・所得環境が消費を支え、設備投資も底固く、本年1月には景気回復期間が戦後最長となることが期待されております。

世界景気は、米国発の貿易摩擦や中国経済の減速等により、世界の輸出入が減少しつつあり、さらには欧州主要国の政治的なりリスクも加わるなど不透明感が急速に増してきています。本年10月には消費税引き上げが予定されており、企業主導の外需に頼ってきた国内景気への影響が懸念されます。

通商貿易を取り巻く状況は、米国を除く環太平洋経済連携協定（TPP）が参加11か国で昨年12月30日に発効され、日本とEUとの経済連携協定（EPA）は本年2月の発効が決まりました。さらに、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）も昨年実質的な交渉が進み、本年妥結に向けて進展することが期待されております。

このように海外市場に依存している縫製機械業界にとって明るい話題がある一方、米国の保護主義や利上げに伴う新興国通貨への影響など懸念され、発展して来た東南アジア、南アジアのアパレル産業の市場動向には引き続き十分注意を払うべきだと考えます。

今年は「亥（いのしし）年」です。「亥（いのしし）」の干支（えと）は、「無病息災の象徴」で目標に向かって猛進していく、人を助けるとされています。我が国が少子高齢化社会を迎えるにあたり、様々なものがつながることで新たな付加価値を生み、今年の干支にあるように「成果をだすべく猪突猛進」をもって新しい社会に適応していく必要があると感じています。

以下、当工業会の主な取り組みについてふれたいと思います。  
一つはJIAM 2020 OSAKA「国際アパレル機器&繊維産業見本市」です。

会期を2020年5月20日（水）～23日（土）、場所をインテックス大阪4号館、5号館、6号館A、6号館Bとして、「次世代技術と匠の技のコラボレーション ～JIAMから発信～」をテーマに開催いたします。JIAM展としては、12回目となります。本展示会は、「日本の最新技術を発信する場」であり、「課題解決やカイゼン活動に取り組んできた匠の技術」と「最新技術」を融合・協働することで、新たな付加価値を生み出す次世代の製品やシステムをご覧いただける場になると確信しております。

既に出展募集を開始し、多くの会員企業が出展表明しており、日本の縫製機械業界の皆様からの積極的な参加に加えて、アパレル・繊維業界そして関係官公庁の皆様方からのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

また、ドイツ・フランクフルトにおいて5月に開催されるTexprocess2019には、当工業会と会員企業6社と規模を拡大しジャパンパビリオンとして出展します。また、中国・上海において9月に開催されるCISMA2019へのジャパンパビリオンとしての出展募集も予定しておりますので、多数のご参加をお願いいたします。

二つ目は、家庭用ミシンを使った『ものづくり』の普及促進に関することです。この活動の中心となる本年の第39回「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」では、本年も高校生を対象にインターネットを使った写真選考を取り入れました。応募作品は、いずれも素晴らしい出来栄の力作やアイデア溢れる個性的な作品です。関係された先生、学校関係の皆様方のご協力に深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月2日（土）に開催します。私共としては、今後も本コンクールが、我が国の『ものづくり』文化のすそ野拡

大、並びに将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に連なることを念願しております。

三つ目は、IoT、AI、ロボット、ビッグデータの活用による第四次産業革命の時代を迎え、コネクテッド・インダストリーズへの対応です。昨年、当工業会に「共通基盤ネットワーク研究会」を立ち上げ、アパレル、副資材、プリント、CAD/CAM、ミシン業界など関係者にお集まりいただき、縫製工場を取り巻きさまざまなデータ利活用に向けて議論を行っており、年度内に取りまとめを行う予定です。縫製機器の接続には、CAD/CAM間のように、ミシンなど縫製機器が必要とする要件を抽出してそれぞれ共通化する必要があると感じております。

四つ目は、「縫製機械整備」技能検定に関することです。昨年、当工業会では実技試験に向けた新機種の整備などを行

い、受検者数は138名（11月6日現在）となり100名を超え安堵したところです。今後とも、受検者増に向けた広報活動を継続していく所存です。

最後になりますが、私共としては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図りつつ、経済産業省のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいります。

本年5月には新元号となります。災害や事件のない穏やかな時代となることを祈念するとともに、本年の皆様の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 年頭所感

経済産業省 製造産業局  
産業機械課長 玉井 優子

平成31年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

我が国経済は、安倍政権発足から6年での様々な改革や金融・財政政策によって名目GDPは54兆円増加、正社員の有効求人倍率は1倍を超え、2%程度の高水準の賃上げが5年連続で実現するなど、着実に成長軌道に乗りつつあります。

こうした中、ロボットやAI、IoT技術の登場により、新たな付加価値や製品・サービスが生まれるなど、企業を取り巻く競争環境は劇的に変化しています。

第4次産業革命時代に、日本が勝ち残り、世界をリードしていくためには、様々な業種や企業、人、機械、データなどが繋がる「Connected Industries」の実現が重要な鍵となります。このコンセプトは、データを介して、様々な繋がりが生まれることで、新たな産業や付加価値の創出、社会課題の解決につながっていくものです。日本の強みはものづくりの現場にある、と言われますが、日本の製造業は深刻な人手不足に直面しています。こうした現場に、ロボットやAI、IoTなどの技術を導入することで、人材育成や技能の伝承などを実現していく必要があります。

また、アジアを中心とする新興国の成長を取り込み、日本の優れた技術を世界に展開していくことも重要な課題です。そのため、最先端のインフラシステム輸出や国内外の企業の連携等による海外展開を後押しすべく、関係部署とも連携しながら、海外進出のための環境整備等を積極的に実施してまいります。

こうした取組に加え、中小企業の取引条件を改善し、サプライチェーン全体で付加価値を生み出す取組も不可欠です。産

業機械業界では、業種別の自主行動計画が策定され、着実に取引適正化の取組が進んできています。発注側、受注側双方の理解、協力を進め、企業間取引が『Win-Win』の関係となるよう、引き続き、下請取引適正化を産業界全体で進めて頂きたいと思っております。

福島の復興は、経済産業省の最重要課題です。経済産業省では、福島県とともに、「福島イノベーション・コースト構想」の中核となるロボットテストフィールドの整備等に取り組んでいます。ロボットテストフィールドは、試験飛行や実証実験を行える場です。来年3月に全面開所予定であり、ワールドロボットサミット2020も開催予定です。産学官の関係者に広く活用いただきたいと思っております。

本年10月には消費税率引き上げが予定されており、増税後の反動減も懸念されているところですが、こうした影響によって景気の腰折れやデフレ脱却に向けたチャンスを逃してはなりません。そのため、経済産業省では各種支援策を通じて、国内景気の下支えや、果敢にチャレンジする企業を応援してまいります。

これからも皆様の現場の生の声をお伺いし、それを産業政策に生かしていきたいと考えております。何かお困りごとやご提案などがございましたら、どうぞお気軽にお声を掛けてください。

最後になりましたが、本年は、新しい元号がスタートする節目の年でございます。本年が、皆様方にとって更なる飛躍の1年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 新年賀詞交歓会開催される

当工業会の2019年（平成31年）新年賀詞交歓会を、1月17日（木）13時30分から日本工業倶楽部3階大ホールにおいて開催しました。出席者は、経済産業省をはじめ各関係団体、報道関係、当工業会関係者を含め100名で盛大に執り行われました。開会にあたり、当工業会の眞壁会長から次の挨拶がありました。

主要事業の一つは、「共通基盤ネットワーク研究会」でコネクテッドインダストリーズへの対応を検討し、縫製工場における全行程間のデータ連携が可能なシステムを構築するため議論を重ねており、今年度中にある程度の取りまとめを行いたい。二つ目はJIAM2020で、2020年5月20日（水）から23日（土）まで、インテックス大阪で「次世代技術と匠の技のコラボレーション～JIAMから発信～」をテーマに開催する。現在鋭意準備中であり、5月と9月に開催される海外主要展示会で「ジャパンパビリオン」を出展し、JIAM2020のPR活動を行う予定である。三つ目の第39回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、本年度も多くの作品が寄せられ、来る3月2日（土）に上位入選作品の表彰式を予定している。本年も会員相互のコミュニケーション、業界の活性化を図り、更なる飛躍へつなげていきたい。

続いて、ご来賓を代表して経済産業省製造産業局産業機械課 玉井課長殿から、縫製工

程間のデータ共有化を進め、縫製機械に留まらずユーザーも巻き込み一体となって生産性向上に取り組んでいただきたいと挨拶がありました。

その後、当工業会の美馬副会長（JIAM2020実行委員長）から、「IoT」、「AI」を活用した共通基盤の検討、コネクテッドインダストリーズへの取り組みで明るい未来を切り開いていきたい旨挨拶後、乾杯発声が行われ和やかな雰囲気での歓談が行われました。

最後に清原副会長から、共通基盤ネットワークを具体的に事業計画として取り組み、工業会として道を切り開いていきたい旨挨拶後、中締めが行われ盛況のうちに終了しました。



眞壁 八郎 会長



玉井 優子 産業機械課長



美馬 成望 副会長



清原 晃 副会長

## 第3回共通基盤ネットワーク研究会開催

当工業会は「共通基盤ネットワーク研究会」を設置し、政府が進める「コネクテッドインダストリーズ」に対応して、当業界並びに川上から川下業界を含めた生産工程におけるデータ連携に取り組み、縫製機械製造業の競争力を高めることを目的に、これまでに同研究会を3回開催しました。第1回では制服、

紳士服等の縫製メーカーの取り組み、第2回は「CAD/CAM」メーカーの取り組み、そして第3回はミシンメーカーの取り組みについてプレゼンテーションを行い、関係者との意見交換、情報交換を行いました。第3回目の概要は以下のとおりです。

**日 時** 平成30年11月30日（金）14:30～17:00

**場 所** 東海大学校友会館（参加者 51名）

**内 容**（社名、講演者名・敬称略）

- ①ブラザー工業(株) MB開発部 開発設計1G 赤羽 浩一
- ②JUKI(株) 上席理事 中村 宏
- ③ペガサスマシン製造(株) 商品企画室 室長 船木 和博
- ④三菱電機(株) (名菱テクニカ(株)) 縫製機械事業部 縫製営業部長 寺田 裕
- ⑤(株)友縫機械 代表取締役社長 高木 晶規

第4回研究会はプレゼンの補足、取りまとめを行う予定です。



## 外部技術視察について

2018年(平成30年)11月29日(木)の午後、当工業会の技術第一及び第二委員会関係者等16名による外部技術視察を行いました。この事業は我が国の産業における最先端技術及び技術革新に関する現状を把握し、縫製機械産業の技術開発の参考とするため定期的に行われており、本年度は産業用ロボット等の先進企業、「ファナック(株)本社工場」(山梨県忍野村)を訪問しました。

同社の中心事業(FA、ロボット、ロボマシンの)の製造工場、評価試験場及び修理工場を見学し、更に「IoT」により製造・生産の最適化を実現する「FIELD system(注)」についても説明を受けました。参加者は高い関心を示し有意義な時間を過ごしました。

(注) FIELD systemとは:FANUC Intelligent Edge Link & Drive systemの略。

製造業での更なる生産性向上と効率化を目指した、製造業向けオープンプラットフォーム。



## 第39回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第39回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は526校(前年597校)、応募点数は3,645点(前年4,120点)でした。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり選ばれました。

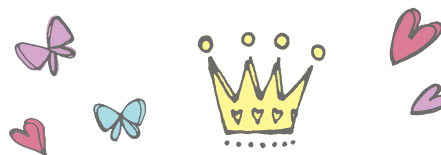
入選作品表彰式は、2019年(平成31年)3月2日(土)、13時30分より日本工業倶楽部(東京都千代田区丸の内)で執り行います。なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関向けにお知らせします。

### 1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 25点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 36点
- 努力賞 180点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点

### 2. ホームソーイング振興最優秀校賞

小学校、中学校、高等学校 各1校(計3校)



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支「亥」にふさわしく、定めた目標に向かって「猪突猛進」する一年に・・・と気持ちを新たにされている方も多いのではないのでしょうか。

当工業会では多くの会員企業において、2020年5月に開催されます国際アパレル機器&繊維産業見本市(JIAM 2020)に向けての取り組みがスタートされることと思われます。

2019年が当工業会、そして、会員企業の皆様にとりまして実り多き一年になりますようお祈りいたします。(N.Y.)

## JASMA 会報

Vol.15 No.4 2019年1月31日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会  
発行責任者：湯原 孝志

〒105-0004  
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階  
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

URL <http://jasma.or.jp>  
Eメール [info@jasma.or.jp](mailto:info@jasma.or.jp)

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。